



hida
広報

ひだ

町木



第90号

肥田町
まちおこし
推進協議会

肥田町の防災について

「互・近・助(ごきんじよ)」の心

副自治会長 薩摩 三次

今夏は記録的な猛暑となり、連日、テレビや新聞で毎日のように熱中症の報道がされ、皆さまも体調管理には「苦労されたこと」だと思います。

最近、台風や地震など異常気象が多く発生していますが、肥田町では、幸い大きな自然災害もなく生活できていることは幸甚なことです。

先日の肥田町防災訓練には、多くの方の参加をいただきました。鶴野消防隊員より消火器の使用方法を指導いただき、皆さまにも消火訓練を実施していただきました。大いに勉強になったことと思います。残念ながら、先日、肥田町内でもあわや大火災かという事態が発生しました。幸い大火には至らず、座布団が焦げた程度で済んだようですが、一歩間違えば、かつての公民館火災と同じ事態を招くところでした。

た。火災は、火の元をしつつか管理すること。そして不運にも火災が起きたときは、日ごろの訓練を生かし、初期のうち、消火活動にあたるのが大切だと思います。

自然災害では、千葉県など今年も台風による長引く停電や断水、住家の損壊、農作物被害などが発生しました。今も一瞬に生活の場を奪われ、大変な「苦労」をされている方も多く、修復、復興が進められています。一日も早い復興を願わざるには得ません。

日ごろ、私たちは全く災害を受けることなく平穏に生活できることを願っています。万が一、台風、地震など突然の災害に襲われたときは、自分の命を守る事が一番です。



そして次に大事なことは、「互・近・助」の心で、お互いに近くの方と助け合う、「ごきんじよの心」で行動いただくことだと思います。

町民の皆さまには、防災グッズの準備や避難場所の確認を行うなど、自然災害から受ける被害を小さくする努力を継続いただきたいと思えます。

今後とも、地域の皆さまの防災活動に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

地藏盆と夏まつり

夏真っ盛りの八月十日、子供会主催による地藏盆と、夕暮れ時から恒例の夏まつりが開催されました。

地藏盆では、輿輪寺の新任職となられた松枝義法様の読経とともに子供たちが小さな手を合わせ、地藏盆とは何かというお話を聞きました。それぞれ元気に大きく育ってもらいたいと思えます。



黄昏迫った時刻からは、西田自治会長の挨拶を皮切りに、自治会内諸団体協力による夜店の開店や江州音頭、ビンゴゲームと盛大な夏まつりが開催されました。浴衣姿の方や外国籍の方の参加もあり、高価景品をねらったビンゴの大きな声があるなど、賑やかな一日でした。



上半期の共同活動の概要

今年度も上半期が過ぎました。自治会はもちろん農事改良組合など関係諸団体において、様々な共同活動が展開されました。その一部を紹介します。

自治会では、地域の環境を守るため、堤防や河川敷のほか、公園や河川の清掃・除草活動が行われました。

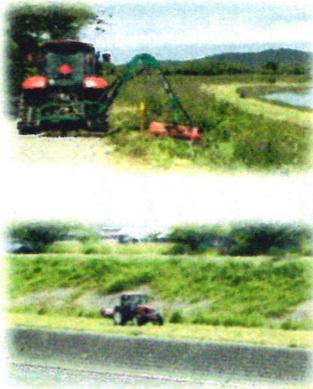


まちづくり委員会や福寿会においても町内の要所々々の除草や散乱ゴミ、不法投棄ゴミの回収のほか、公民館前の植木の剪定にご尽力いただいています。



す。この他、個人のボランティアでも毎年黙々と公民館前の花壇に植栽いただき、美しい景観をつくっていただいています。

農家組織であるファーム肥田では、高齢化社会に対応して、有償ではありますが、町民負担の軽減を図るため、毎年、機械除草を行っていただいています。人口減少や年齢による体力の衰えに対応するためには、これからも知恵を絞り、機械作業できるところは機械作業を取り入れていかなければなりません。ファーム肥田の皆さん、今後ともご協力をお願いします。



このように、自治会内諸団体においては、それぞれがそれぞれの所属する団体を通じて、あるいは一人コツコツと持てる力を発揮し、善意と協力で環境美化に取り組んでいただいていること、大変うれしく思います。

また、農事改良組合では、春の耕作前から、用排水施設の整備点検や日常点検、自動車の通行等で傷んだ農道の

補修などハード面の活動が行われました。



いずこの町も同じですが、農村部では、高齢化や農家の減少、町民意識の変化などによって、昔ながらの農業文化が衰退しつつあります。これからのまちづくりは、新しい時代にふさわしい農村社会のあり方を模索しつつ創造し、協働の力で共に支え合う地域社会を築いていくことだろうと思います。みんなで住みよい肥田町、愛着の持てる肥田町を継承するため、力を合わせましょう。ご参加いただいた皆さん、大変ご苦労様でした。そして、今後ともよろしく願います。

生き物観察会の開催

講師からひと言

成宮一郎

八月十一日、ふるさとの小川である肥田町内の小川で、水の中に住む生き物観察会を実施しました。

結果は、少し汚いという評価でした。昭和三十年代は泳いだりして遊んだ川ですが、便利な生活で環境の恵みを忘れていることを子供たちは発見し、大人に訴えています。子どもから大人まで、これ以上環境悪化をさせないよう気を付けましょう。



郷土愛の力(歴史)
協働・継続の力(絆)

子供たちの作文

お魚観察会をして思った事

六年 本持 琉衣

私が今回のお魚観察会です。思った事は、「やっぱり少しききたないんだな。」という事です。

私は毎回毎回水質を見てはおどろき、改ぜんしようと思うのですが、少ししたつてはすぐ忘れてしまいます。今年こそは、これ以上水質が悪くならないようにいつも意識して、毎日の日々を過ごして行きたいと思えます。

そして、この事を家族や友達にも伝えて、私以外の人達にも意識してほしいと思います。これで終わります。とても楽しかったです。

お魚観察会です思ったこと

五年 大村 りおな

私は、生き物観察会で少しよこれている水にすむカワニナとスジエビをみつけました。結果が少しよこれている水と聞いて、少し残念でした。

私は、なぜ水が少しよこれているのか考えました。私は、きつと洗さいなどの使いすぎで水がよこれているのかなと思えました。もしそうであれば気をつけたいです。

おさかなかんさつかいをして

五年 松枝 義陽

スジエビやカワニナが多かったです。去年より水がきたなかつたです。去年よりエビが多かったです。つかれました。



お魚観察会をして考えた事

五年 薩摩 杏

私は、お魚観察会をして思ったことは、きたないんだなあつて思いました。理由は、みためはにごつてないのに、いる生物はすこしきたないんだあつて思いました。昔は、すこいきれいだったのに、いまじやきたないのがふつうとなつたのです。世界はきたないのですね。魚がいつぱいいいたけれど、これにくく、なんの生物か分からない物もいました。

四年 松山 まい

わたしは、今日、魚をつつて、いろいろな魚をつりました。エビとたにしとジミを取りました。いろいろな川の生き物をつつてよかつたと思えました。

三年 伊藤 めい

今日のお魚かんさつかいでは、たくさんのカワニナやスジエビが見つかりました。ふだんは気づかなかつたけど、みじかな川に色々な魚や生物がいるのが分かつてよかつたと思えました。うれしかったです、たのしかったです。

お魚かんさつをおわつて

二年 みや川 ゆずき

いきものには、メダカやザリガニもいました。いきものがたくさんいて楽しかったです。

三年 本持 まひろ

いきものかんさつかいをしました。ぜんぜん楽しくなかつたけど、魚とれてよかつたです。とれたのは、メダカとえびがとれてよかつたです。もうぜつたいやりたくないです。

二年 元持 愛菜

今日のお魚かんさつかいでは、たくさんのかわエビやたにしなどをみつけることができました。こんなみじかにエビがいるんだなと思えました。とても楽しかったです。

二年 元持 美月

わたしは、いきものかんさつかいでエビと小さい魚をみつけました。かわの中にいつぱいいいました。ひ田のかわは、すこしよこれているとわかりました。あつかつたけど、がんばつてさかなをつかまえました。

すきです。魚が

二年 松枝 純平

すきです。魚が。メダカがいました。スジエビもたくさんいました。

二年 まつ山 ともか

わたしは、いきものアメリカザリガニをみつけました。とてもちつちやかつたです。

一年 元持 み雪

わたしは、いきものかんさつかいでエビとアメリカザリガニをみつけました。あとカワニナがいつぱいいいました。あつかつたけど、がんばつてつかまえました。

一年 もともち あおば

きょうのおさかなかんさつかい。たくさんのかわえびやたにしをみつけることができました。とてもたのしかったです。

一年 もともち ここ

わたしは、いきものかんさつかいをしました。メダカがいました。たのしかったです。

お悔やみ

安らかに眠りください

薩摩 幸雄さん 享年八十六歳
(令和元年九月二十九日逝去)



ふるさと歴史探訪記 6

高瀬 俊 英

高野瀬氏、織田勢に与し自滅

肥田城の水攻めや野良田表の合戦など、永祿の戦いで、高野瀬氏は勝つには勝ちましたが、損害は甚大でした。それから十二年後の天正二年（一五七四年）、高野瀬氏は柴田勝家に従つて越前（福井）へ行き、浅井から織田に主君を乗り換え、安居（あんこう）現福井市の旧西安居村、東安居地区を指し、安居城跡は東安居地区にあります。この地で、信長に率兵した本願寺頭如の一揆軍と戦つて敗れ、敗戦の責任をとつて秀隆、隆景親子は自刃（四月十一日）しています。翌日、家来も殉死し、ここに高野瀬氏は滅びることとなりました。

織田信長に刃向かう者は撫で斬り

一方、織田信長は永祿十年（一五六八年）に斎藤龍興の稲葉山城を攻略し、地名を岐阜と改名しますが、翌年には京都に上つて禁裏（天皇の館）を安堵し、永祿十二年（一五七〇年）には再び入京して室町幕府の將軍、足利義昭に加勢し、二条城を造営します。越前の朝倉や近江の浅井とは戦いを続けています。

ところが、天正元年（一五七三年）、足利義昭は、甲斐の武田信玄や本願寺光佐（願如）、越前の朝倉義景、近江の浅井長政らと連携し、信長の追討を謀ります。

これに対し信長は、二年前には、延暦寺が朝倉を支援したため、比叡山一帯を焼き討ちしていますが、天正三年（一五七五年）には上京して將軍を追い、ついに室町幕府を滅ぼします。

信長は、願如の一揆軍と和睦することもありましたが、この後、安土城が完成する天正七年（一五七九年）頃まで戦いが続きます。

高野瀬氏亡きあと肥田は

高野瀬氏が滅んだ後、信長は、肥田城に美濃武士だった蜂谷頼隆を送り込み、肥田城を整備させます。

天正五年（一五七七年）には、二月十日と九月二十九日、軍団を連れて根来（ねごろ）討伐に往復する信長の子、信忠が肥田城に一泊している記録があり、肥田城とその城下町の建設も相当進んでいたことが想像できます。

（編集者注）

左記肖像画は崇徳寺に保管されているものですが、その原画は、彦根市指定文化財に指定され、彦根城博物館に保管されています。肥田の歴史を証明する貴重な史料です。

編集後記 (森田喜久雄)

秋の収穫も終わったようです。今年の作況はどうだったでしょう。個別経営の農業から集団経営の農業に変わった今、皆さんの関心も薄れているのではないのでしょうか。集落機能の原点に農業があった時代から、その座を譲るようになってしまった今、地域の絆を繋ぎ、安心安全で住みよい地域社会を継承する新しい要となるものが望まれます。

九月は防災月間です。今年も災害が発生しています。佐賀での八月豪雨、油の流出による二次被害もあって、生活の再建は非常に心配な状況になっているようです。その復旧もままならないうちに、今度は千葉を中心に台風十五号による甚大な暴風災害が発生しました。非常に凄まじい台風だったようで、電柱が数多くなぎ倒されていました。現代人は電気がない生活ができなくなっています。二週間も二週間も電気がない生活を想像すれば、・・・健康不安のある者は・・・です。いざという時に、助け合いのできる地域社会を維持していきたいものです。

世界情勢、依然として不安ばかりです。米中の争いは世界の同時不況にも発展しかねませんし、イランやサウジにもきな臭い臭いが漂い始めました。イギリスのEU離脱問題も大荒れです。日韓の行方はどうなるのでしょうか。



高野瀬秀隆像 (崇徳寺所蔵)



蜂谷頼隆像 (崇徳寺所蔵)